

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2016年5月)

発表日2016年6月10日(金)

～前月比プラスとなるも、力強さは見られない～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 伊藤 佑隼
TEL : 03-5221-4524

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2015	1月	▲ 1.3	0.3	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 1.3	0.5	▲ 2.8	2.2	▲ 6.1	▲ 6.6
	2月	▲ 0.1	0.4	0.1	▲ 2.4	▲ 0.1	0.4	▲ 0.9	2.7	▲ 5.5	▲ 10.1
	3月	0.3	0.7	0.5	▲ 2.0	0.3	0.7	0.6	3.4	1.9	▲ 8.2
	4月	0.1	▲ 2.1	0.2	▲ 1.6	0.0	▲ 2.1	▲ 0.6	2.8	▲ 2.2	▲ 9.9
	5月	0.2	▲ 2.2	0.2	▲ 1.3	0.3	▲ 2.1	1.2	4.8	0.3	▲ 8.9
	6月	▲ 0.2	▲ 2.4	0.2	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 2.4	1.6	6.6	3.4	▲ 6.0
	7月	▲ 0.7	▲ 3.2	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 3.0	▲ 1.4	5.3	▲ 1.7	▲ 7.4
	8月	▲ 0.6	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 3.5	▲ 0.8	3.6	▲ 2.0	▲ 9.8
	9月	▲ 0.5	▲ 4.1	▲ 0.1	▲ 1.6	▲ 0.5	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 1.4	▲ 4.4	▲ 15.5
	10月	▲ 0.4	▲ 3.8	0.1	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 3.6	▲ 0.7	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 15.8
	11月	▲ 0.1	▲ 3.7	▲ 0.2	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 3.5	0.7	▲ 5.3	0.6	▲ 17.6
	12月	▲ 0.3	▲ 3.5	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 3.4	▲ 1.0	▲ 6.9	▲ 2.7	▲ 18.5
2016	1月	▲ 1.0	▲ 3.2	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 6.8	▲ 5.8	▲ 18.2
	2月	▲ 0.3	▲ 3.4	0.0	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 3.6	▲ 2.1	▲ 7.9	▲ 5.2	▲ 17.9
	3月	▲ 0.1	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 4.0	▲ 0.7	▲ 9.1	▲ 1.2	▲ 20.4
	4月	▲ 0.4	▲ 4.2	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 0.3	▲ 4.3	▲ 1.2	▲ 9.6	▲ 1.4	▲ 19.8
	5月	0.2	▲ 4.2	0.3	▲ 1.3	0.2	▲ 4.3	▲ 0.5	▲ 11.1	▲ 0.1	▲ 20.1

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○5月国内企業物価は前月比+0.2%、前年比▲4.2%

日本銀行より発表された2016年5月の国内企業物価指数は前年比▲4.2% (コンセンサス: 同▲4.2%、レンジ: 同▲4.4%~▲3.9%)、前月比では+0.2% (コンセンサス: 同+0.1%、レンジ: 同▲0.1%~+0.3%) という結果となった。

前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは農林水産物 (前月比: +2.4%、前月比寄与度: +0.09%)、石油・石炭製品 (前月比: +1.8%、前月比寄与度: +0.09%ポイント)、電力・都市ガス・水道 (同+0.8%、同寄与度+0.05%ポイント)、スクラップ類 (同+4.1%、同寄与度+0.02%ポイント)。マイナスに寄与したのは非鉄金属 (前月比: ▲1.2%、前月比寄与度: ▲0.03%ポイント)、食料品・飲料・たばこ・飼料 (同▲0.1%、同寄与度▲0.02%ポイント) などであった。

電力・都市ガス・水道の上昇の主因は、再生可能エネルギー発電促進賦課金の引き上げによる電力価格の上昇であった。このような一時的な特殊要因を除けば、これまで続いていた原油安による下落圧力は依然として残っており、6月の電力・都市ガス・水道は再び前月比マイナスになる見込みだ。

非鉄金属については、銅価格が国際商品市況において軟調に推移したことを背景に、4月に続き前月比マイナスとなり、前年同月比では▲17.2%と4月 (同▲14.8%) からマイナス幅を拡大させた。

○円ベースの輸入物価は低位での推移が続く

5月の輸入物価をみると、原油価格が持ち直していることなどを主因に、契約通貨ベースでは、前月比+0.3%と4月に続いてプラスとなった。円ベースでは前月比▲0.1%と4月 (同▲1.4%) から下落幅は縮小

したものの、下落が続いた。商品市況については原油で持ち直しが見られる一方で、銅価格は低下が続くなど、まだら模様だ。加えて、円高による下押し圧力を考慮すれば、円ベースの輸入物価は低位での推移が続く見込みだ。

○消費財の国内品は前月比+0.3%、前年比▲1.3%

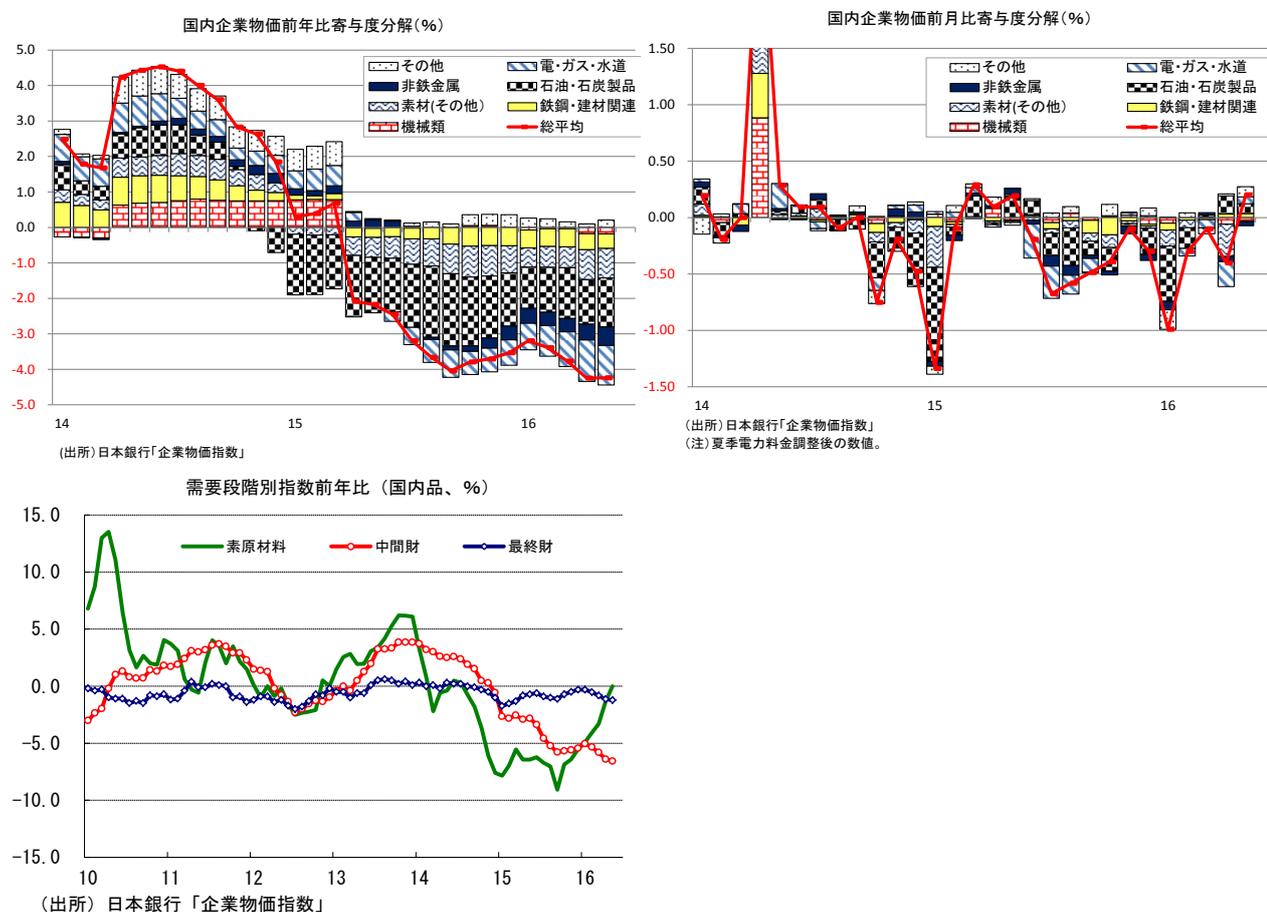
需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比+1.1%（前年比▲26.5%）、中間財は同▲0.6%（同▲7.6%）、最終財は同0.0%（同▲3.0%）となった。消費者物価と関連の深い消費財の国内品は、牛肉や豚肉といった農林水産物の価格上昇を受け、前月比+0.3%（前年比▲1.3%）という結果になった。

原油価格が底打ちをしたことなどを背景に、素原材料は前月比3ヶ月連続プラスとなった。中間財も1年ぶりに前月比プラスとなるなど、川上からの物価下押し圧力は一服しつつある。しかし、輸入物価は低位での推移が続くと見込まれる中、消費財価格への押し上げ圧力までは当面期待しにくい。

○明確な底打ちにはまだ時間が必要

このように5月の国内企業物価は、4月に続き石油・石炭製品が高い伸びとなったことや農林水産物、電力・都市ガス・水道が上昇したことなどを背景に、前月比プラスとなり、11ヶ月連続の前月比マイナスに一旦歯止めをかける結果となった。しかし、先述した特殊要因による押し上げ効果があったことなどを考えると、国内企業物価は依然として底を探っている状況であろう。

先行きを展望すると、中国の過剰供給問題が再び意識され始めていることを要因とした国際商品市況の回復の遅れや、円高による輸入物価押し下げ圧力などを背景に、国内企業物価は低位での推移が続く見込みだ。国内企業物価が明確な底打ちをするのは、年後半以降となるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。